



## ギリシアRGCCがん遺伝子検査ラボ ニュースレター 【循環腫瘍細胞の役割と考えられる臨床的価値】

Chin J Cancer Res. 2015

### Circulating cancer stem cells: the importance to select.

(循環腫瘍細胞における選択の重要性)

Yang MH, Imrali A, Heeschen C.

#### 論文要旨

臨床的に明白な転移のない限局性の腫瘍であっても、循環腫瘍細胞(CTCs)を生じる事が証明されている。ますます多くの技術的に多様なプラットフォームが、循環血中のCTCsを検出/分離するために開発されている。血液中に稀にしか存在しないCTCsを分離することの技術的困難があるにもかかわらず、最近の研究では、既にCTCs数の列挙の予後予測での価値を証明している。従って、CTCの数は、患者の予後と結びついており、治療の奏功のモニタリングと疾患の再発の監視に、それぞれに利用化能であることが受け入れられつつある。更に、CTCsによって、液体生検と呼べる、非侵襲性の腫瘍採取が可能で、生検を行うことが出来ない患者や、治療に次いで連続に行う生検が現実的に無理な患者にとって、殊更に重要である。他方、CTCsの分子生物学的な特徴把握は、いまだ実験段階に留まっている。転移を駆動させる循環癌幹細胞の本質的な役割を把握するために、CTCsの不均質性を定義する更なる研究が必要である。転移は、幹細胞性と浸潤性に基づいた転移開始能力を担うCTCsの個別のサブ集団によって為され、それ故患者の臨床的な帰結に重大な影響を与える。非腫瘍形成性の非転移性のバルクCTCsと比較すると、循環癌幹細胞は、原発腫瘍を回避できるばかりでなく、免疫監視も回避して、循環血中に生存して、次第に遠隔の臓器に転移を形成する。従って、循環癌幹細胞は、浸潤性に特徴があり、疾患の進行を妨げるための治療標的になりうる、ただ発癌性がある癌幹細胞のサブ集団である。今日、循環癌幹細胞に焦点を当てたオリジナルレポートやレビューほとんど刊行されなくなっている。このレビューでは、これらの循環癌幹細胞を分離し、特徴付けることに対して考えられる重要性を論じるばかりでなく、現在の技術的限界にも焦点を当てる。

#### 各位

R.G.C.C. 社ニュースレターのアブストラクトの訳を配信致しました。

原文をご希望の際はお申し付けください。

会員向けの無料配信がございます。

<https://www.rgcc-group.com/index.php?page=newsletter>

にてお名前とEmailアドレスを入力の上、ぜひご登録をお願い致します。

ここに登録頂きますと、以下の情報が配信されます。

- ・ R.G.C.C.社ラボとコンタクトを持つ世界中の医師からの質問とそれへの返答内容。
- ・ 世界中のがんの専門医から寄せられる論文、治療の手法、意見、アイデア、CTCにかかわる世界の学会情報などの共有。
- ・ R.G.C.C.社ラボにおけるCTC、CSC、天然成分由来の抗がん治療製剤開発などにかかわる最新情報の配信。
- ・ CTC、CSCに基づき治療された患者群のフォローアップ統計の推進(これは再検査の際に提出される患者フォローアップシートへの記入がもととなりますので、ぜひご協力のほどお願い申し上げます)。

以上ですがぜひ、このサークルを広め役に立つ情報の共有を推進したくご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

株式会社デトックス